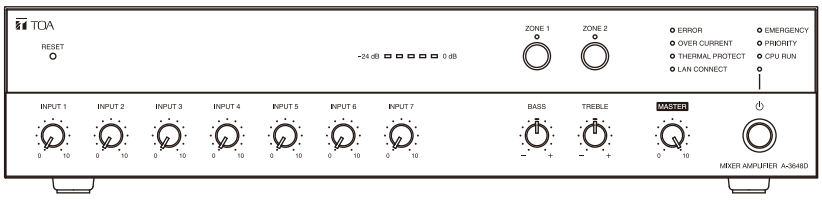
取扱説明書

PA アンプ

A-3606D
A-3612D
A-3624D
A-3648D

（Ver. 1.06）



※ 図は A-3648D です。

本書はファームウェアバージョンが 1.06.01 以降の機器に適用します。ファームウェアバージョンはブラウザーから確認できます。
詳しくは、別冊の設定説明書をお読みください。設定説明書は TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

このたびは、TOA PA アンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

安全上のご注意 3
概　要 6
特　長 6
使用上のご注意 7
設置上のご注意 7
ダッカ―機能と優先放送機能 7
各部の名称とはたらき 8
　前面 8
　後面 10
接続のしかた 13
　スピーカーの接続 13
　入力端子の接続と設定 14
　リモートマスターボリューム端子の接続のしかた 16
　電源リモート出力端子の接続のしかた 16
　緊急制御出力端子の接続のしかた 17
　ゾーン制御入出力端子の接続のしかた 17
　制御入力端子の接続のしかた 18
　ライン出力とパワーアンプ間の外部機器接続のしかた 18
　着脱式ターミナルプラグの接続のしかた 19
設定のしかた 20
　チャイム音の設定 20
　ライン出力連動スイッチの設定 20
ダッカー量の調節 20
ボリュームの調節 21
スピーカーゾーン選択 21
ラックに取り付けるとき 22
調節つまみの設定 22
優先放送機能 23
　優先放送 23
　優先放送のモード 23
　緊急放送 24
　通常放送 24
　制御入力による優先放送、緊急放送時と電源オン／オフの関係 24
　工場出荷時の設定 25
　設定例と動作イメージ 26
スピーカーゾーン選択の動作イメージ 29
ブラウザーでの設定 29
ブロックダイヤグラム 30
仕　様 31
　付属品、別売品 32

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号		
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け	アース線を接続せよ

⚠ 警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

安全アースを接続する

接地しないで使用すると、感電の原因となります。
ただし、ガス管は危険ですから、接続しないでください。

アース線を接続せよ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

屋外に設置しない

本機は、屋内専用品です。
屋外に設置すると、部品の劣化により、機器が落下して、けがの原因となります。
また、雨などがかかると、感電の原因となります。

禁　止

電源のアース接続をする

アース接続しないと、感電の原因となります。
アース接続は、必ず電源プラグを主電源に接続する前に行ってください。
また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

アース線を接続せよ

⚠警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

裸火を上に置かない

たとえば火のついたローソクのような、裸火を本機の上に置かないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。

禁　止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

配線はアンプの電源を切ってから行う

電源を入れたまま配線すると、感電の原因となることがあります。

強　制

ラックに取り付けるときの注意

次のことを必ずお守りください。
守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。
- 別売のラックマウント金具 MB-23B に付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。

強　制

使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

定期的に内部の掃除をする

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

記号↯が付いている端子は電圧がかかっており危険です。これらの端子への外部配線は、教育された人による取付を行ってください。

警告：本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

本機は電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）へ容易に手が届くようにしてください。

概　要

マイク入力 4 系統、予備入力 3 系統および 2 局ゾーンセレクターを内蔵した PA アンプです。
各入力個別の音量調整機能を備えており、優先放送機能、チャイム機能、信号処理機能（FBS ／イコライザー／リミッターなど）、状態確認機能を搭載しています。
また、電源部には PFC 回路を搭載し、電源入力特性に配慮した設計です。
学校、事務所、スーパーマーケットなどの呼び出し放送や BGM 放送用途に適しています。

特　長

- アンプの出力は、60 W（A-3606D）、120 W（A-3612D）、240 W（A-3624D）、および 480 W（A-3648D）です。
- デジタルパワーアンプ搭載により軽量化を実現しています。
- 制御入力（接点）による緊急放送および優先放送ができます。
- 音声検知機能を搭載し、音声検知による優先放送ができます。
- 優先放送機能を備えています。
- パソコンを使用してブラウザーから本機の状態を確認できる状態確認機能を備えています。
- スピーカー出力を切り換えて使用できます。
  A-3606D　：8 ～ 16 Ω または 100 系出力
  A-3612D、A-3624D、A-3648D：4 ～ 16 Ω または 100 系出力
- 2 つのゾーンに放送するためのゾーン選択スイッチを備えています。
- マイク入力は電子バランス型で、マイク 1 ～ 4 にはファンタム電源が使用できます。
- ライン出力とパワーアンプ入力間にイコライザーなどのシグナルプロセッサーを接続すると、音をより細かく調節できます。
- 低音用と高音用の音質調節つまみを備えています。
- 出力レベルメーターを備えています。
- すべての入力レベルをまとめて調節する主音量調節つまみを備えています。
- 主音量のリモート制御ができます。
- 1 音、2 音、および上り 4 音のチャイムを内蔵しています。
- 下記の信号処理機能を備えています。
  FBS（ハウリング抑制機能）、イコライザー（3 ポイント）、ゲート、ソフトウェアボリューム、リミッター、ダッカー

使用上のご注意

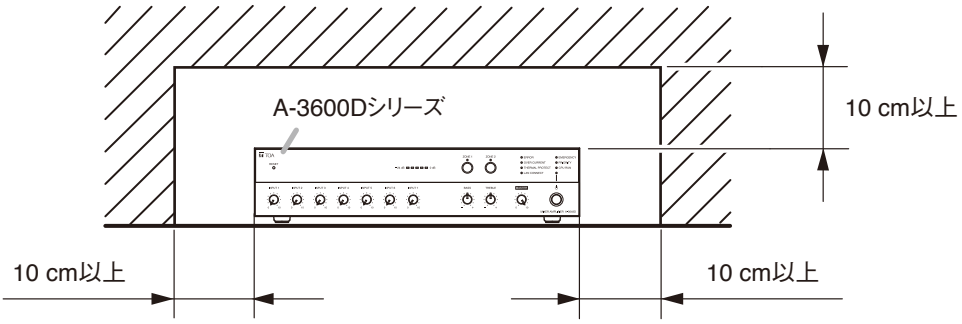
- このシステムでは LAN（ローカルエリアネットワーク）を通して本機の設定・制御を行います。インターネットを経由して本機を設定・制御することはできません。
- 本機の電源の状態によって、一部動作が異なります。電源の状態と動作の関係については、次のとおりです。

電源の状態	LED の状態		通常放送		優先放送・緊急放送	Web アクセス
	⏻	CPU RUN	スピーカー出力から	録音出力から		
無通電	消灯	消灯	不可	不可	不可	不可
通電（電源オフ）	消灯	点灯	不可	不可	場合により可（一時的に電源オン状態になる）	可
通電（電源オン）	点灯	点灯	可	可	可	可

- 単一周波数の信号を使用して音量を調節する場合は、信号を BUS 2 に入力してください。BUS 1 に入力すると、本機の FBS 機能により音量が下がることがあります。

設置上のご注意

- 付属の電源コードは、本機専用品です。本機以外の機器に使用しないでください。
- 本機内部の温度が上昇しないように、通風を良くして設置してください。
- 卓上に置くときは、下図のように、必ず障害物から 10 cm 以上離してください。
- ラックに取り付けるときは、通気パネルを使用してください。（☞ P. 22「ラックに取り付けるとき」）



ダッカー機能と優先放送機能

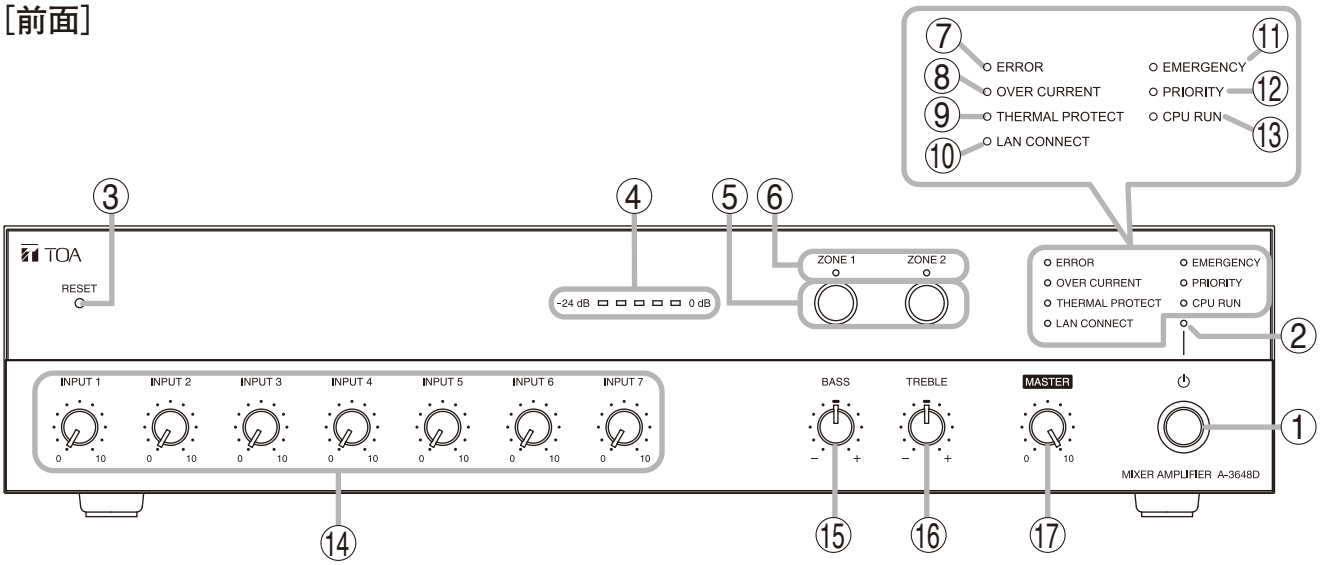
本機には、特定の放送をしたときに、その放送以外の放送出力レベルを下げる機能として、ダッカー機能と優先放送機能の 2 つが備わっています。

ダッカー機能は、2 つに分けた音声グループ間に優先を付ける機能です。
BGM 放送中にマイク放送をするときに BGM の音量を自動的に下げるといった、簡易的な使いかたをするときに使用します。
ダッカー機能の詳細については、P. 20「ダッカー量の調節」をお読みください。

優先放送機能は、放送内容に 6 段階の優先関係を付ける機能です。
ミュートする音声を選択するなど、ダッカー機能に比べて複雑な使いかたをするときに使用します。
優先放送機能の詳細については、P. 23「優先放送機能」をお読みください。

各部の名称とはたらき

［前面］



※ 図は A-3648D です。

1. 電源スイッチ［⏻］

押すと電源がオンになり、もう一度押すと電源がオフになります。

ご注意

優先放送中、緊急放送中は、電源スイッチの操作は無効になります。（☞ P. 23「優先放送機能」）

2. 電源表示灯（緑）

電源をオンにすると点灯し、オフにすると消灯します。

3. リセットキー［RESET］

本機をリセットするときに 1 秒以上押します。
このキーは先の細いもので押してください。

ご注意

リセットキーを押す前に、下記を実施してください。

- すべての音量ノブを反時計回りに回し、ボリューム値が最小の状態にしてください。
- 優先放送中表示灯（12）も緊急放送中表示灯（11）も点灯していないことを確認してください。
- 電源スイッチ（1）をオフにしてください。

4. LED レベルメーター（緑× 3、橙× 1、赤× 1）

出力レベルを表示します。
各音量調節つまみで音量を調節して、赤色の表示灯が点灯しない状態で使用してください。
赤色の表示灯が点灯した状態で使用すると、音質が低下します。

5. ゾーン選択ボタン［ZONE 1、ZONE 2］

放送ゾーンを選択します。
このボタンを押すと、該当するゾーンが選択状態になり、後面のスピーカー出力端子（31）から信号が出力されます。もう一度押すと、ゾーンが非選択状態になり、後面のスピーカー出力端子（31）から信号が出力されなくなります。

ご注意

- 出力インピーダンス設定スイッチ（32）が「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときのみ有効です。
- ゾーン制御入力端子（33）がメイクされている間はゾーン選択ボタンを押しても操作は無効です。

6. ゾーン表示灯（緑）

選択されたゾーンに該当する表示灯が点灯します。

ご注意

- 出力インピーダンス設定スイッチ（32）が「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときのみ有効です。
- 通電している場合は、電源のオン／オフに関わらず CPU が動作しているため、選択されたゾーンに該当する表示灯が点灯します。

7. 異常発生中表示灯［ERROR］（赤）

内部の回路に異常が発生しているときに点灯します。

8. 過電流保護発生中表示灯［OVER CURRENT］（赤）

スピーカー出力に過電流が流れ、過電流保護回路が作動しているときに点灯します。

9. 温度保護発生中表示灯
［THERMAL PROTECT］（赤）
内部の温度保護回路が作動しているときに点灯します。

10. ネットワーク接続確認表示灯
［LAN CONNECT］（緑）
ブラウザーを使用して本機を識別するための表示灯です。
- ブラウザーを使用して識別確認をしたときに 5 秒間点滅します。
- 通電時に 3 回点滅します。
- マニュアルモードの場合は、点灯します。

（☞ 別冊の設定説明書*1）

11. 緊急放送中表示灯［EMERGENCY］（赤）
緊急放送をしているときに点灯します。
（☞ P. 23「優先放送機能」）

12. 優先放送中表示灯［PRIORITY］（緑）
優先放送をしているときに点灯します。
（☞ P. 23「優先放送機能」）

13. CPU 動作中表示灯［CPU RUN］（緑）
CPU が動作しているときに点灯します。

ご注意

通電している場合は、電源のオン／オフに関わらず CPU が動作しているため、この表示灯が点灯します。

14. 入力 1 ～ 7 音量調節つまみ［INPUT 1 ～ 7］
入力 1 ～ 7 の音量を調節します。*2
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと小さくなります。
（☞ P. 21「ボリュームの調節」）

15. 低音調節つまみ［BASS］
時計方向に回すと低音が増幅され、反時計方向に回すと低音が減衰します。
中央の位置にすると、周波数がフラットな特性になります。

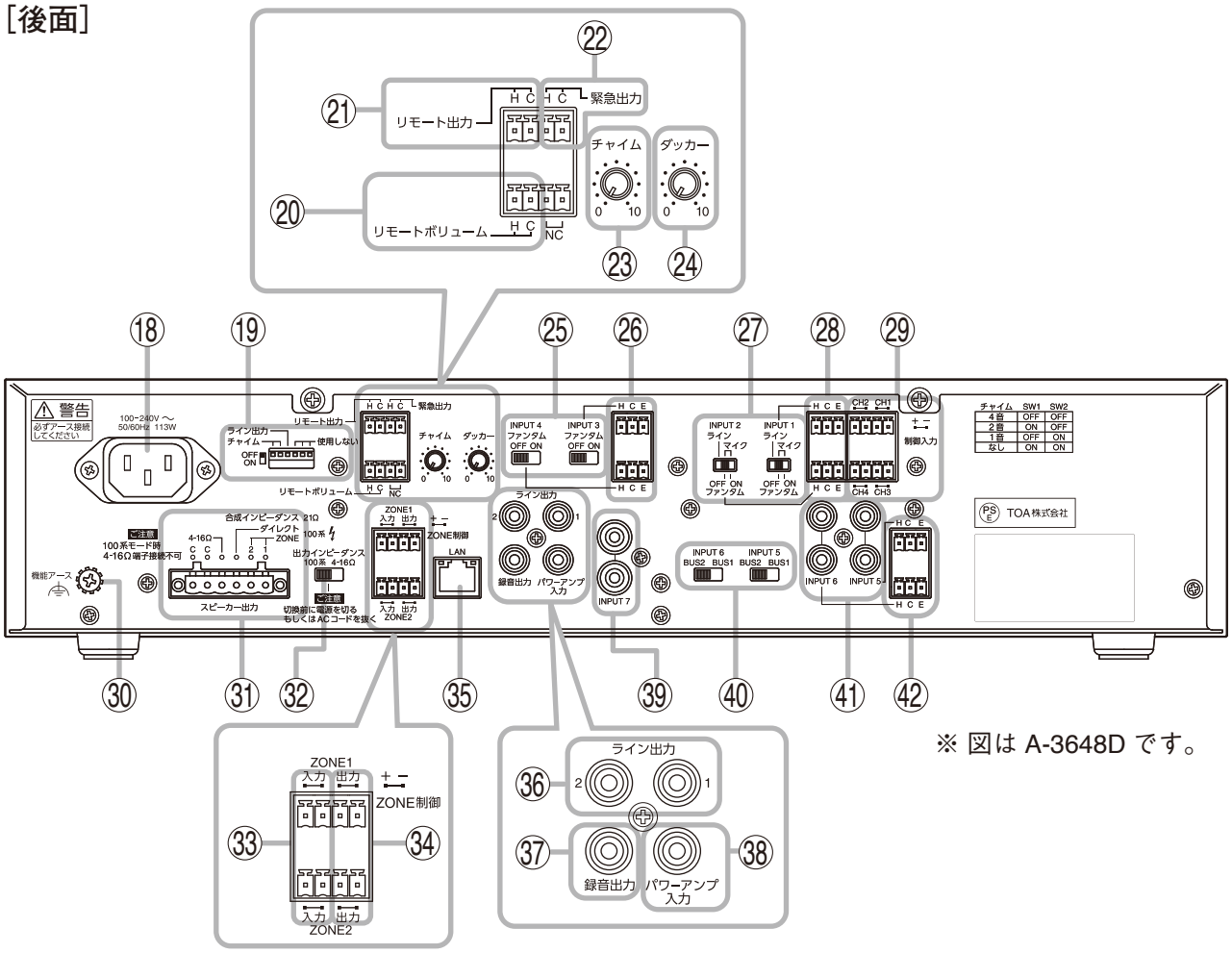
16. 高音調節つまみ［TREBLE］
時計方向に回すと高音が増幅され、反時計方向に回すと高音が減衰します。
中央の位置にすると、周波数がフラットな特性になります。

17. 主音量調節つまみ［MASTER］
全体の音量を調節します。*2
時計回りに回すと全体の音量が大きくなり、反時計回りに回すと小さくなります。
（☞ P. 21「ボリュームの調節」）

*1 TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

*2 本機は入力信号に対して働くゲート機能を搭載しており、入力信号が小さい場合に音声が途切れることがあります。そのときは、該当する入力の入力音量調節つまみで音量を大きくした後、全体の音量を主音量調節つまみで調節してください。
なお、ゲート機能とは、入力信号レベルに応じて入力信号を通過させたり、減衰またはカットする機能です。ゲート機能の設定は変更できません。

［後面］



18. AC 電源ソケット

付属の電源コードを接続します。

> **⚠ 警告**
>
> 電源コードは付属品をお使いください。
> 付属品以外を使用すると、感電の原因となります。

19. DIP スイッチ

- **スイッチ 1、2（チャイム設定スイッチ）**
  使用するチャイム音を設定します。
  （☞ P. 20「チャイム音の設定」）
- **スイッチ 3（ライン出力連動スイッチ）**
  ゾーン選択とライン出力の連動を設定します。
  （☞ P. 20「ライン出力連動スイッチの設定」）
- **スイッチ 4 ～ 6**
  使用しません。

20. リモートマスターボリューム端子

着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P）
10 kΩ、B カーブの可変抵抗器を接続して、音量を調節できます。
（☞ P. 16「リモートマスターボリューム端子の接続のしかた」）

21. 電源リモート出力端子

オープンコレクター出力、耐電圧 DC30 V 以下、電流 25 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P）
他の機器のリモート制御に使用するための出力端子です。
本機の電源オン／オフに連動し、本機が電源オンのときにメイクします。

22. 緊急制御出力端子

オープンコレクター出力、耐電圧 DC 30V 以下、電流 25 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P）
他の機器のリモート制御に使用するための出力端子です。本機が緊急放送中にメイクします。

23. チャイム音量調節つまみ

チャイムの音量を調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと小さくなります。
音量を最小にするとチャイムは無音になります。

24. ダッカー量調節つまみ

BUS 1 の音声放送時に BUS 2 の音量を自動的に下げる量を調節します。
時計回りに回すと BUS 2 の減衰量が大きくなり、反時計回りに回すと BUS 2 の減衰量が小さくなります。
（☞ P. 20「ダッカー量の調節」）

25. 入力設定スイッチ（入力 3、4）
入力 3、4（26）に接続されたマイクにファンタム電源を使用するかどうかを設定します。

メ　モ

ファンタム電源は DC24 V です。

26. 入力端子（入力 3、4）
–60 dB*1、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3P）
マイク専用の入力端子です。

27. 入力設定スイッチ（入力 1、2）
入力 1、2（28）の入力感度レベルの切り換えと、マイク入力の場合にファンタム電源を使用するかどうかを設定します。

スイッチの位置		設定時の入力仕様
マイク	ファンタム ON	–60 dB*1、600 Ω、ファンタム電源入
	ファンタム OFF	–60 dB*1、600 Ω、ファンタム電源切
ライン		–20 dB*1、600 Ω、ファンタム電源なし

メ　モ

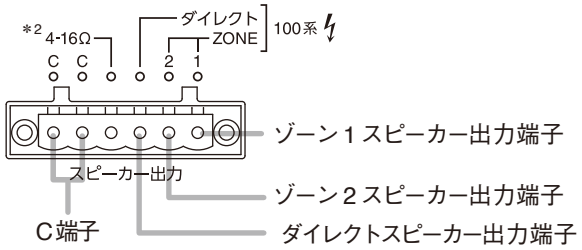
ファンタム電源は DC24 V です。

28. 入力端子（入力 1、2）
–20 dB*1（ライン）／ –60 dB*1（マイク）、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3P）
入力感度は、ライン入力感度かマイク入力感度に切り換えることができます。
入力感度の切り換えは、入力設定スイッチ（27）で行います。

29. 制御入力端子（制御入力 1 ～ 4）
短絡電流：10 mA 以下、開放電圧：DC35 V 以下、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、4P）
優先放送を制御するための制御信号を入力します。
メイクされている間は、該当の優先放送トリガーが入力状態になります。

30. 機能アース端子
本機に外部機器を接続してノイズが多いときは、この端子と外部機器の機能アース端子を接続してください。ノイズが少なくなることがあります。
※ 安全アースではありません。

31. スピーカー出力端子
着脱式ターミナルブロック（5.00 mm、6P）
MAIN 出力かパワーアンプ入力の音声が出力されます。
（☞ P. 30「ブロックダイヤグラム」）
ゾーン 1 が選択されているときはゾーン 1 スピーカー出力端子から、ゾーン 2 が選択されているときはゾーン 2 スピーカー出力端子から信号が出力されます。
ハイインピーダンス設定時は、ゾーン選択スイッチの設定に関係なく、ダイレクトスピーカー出力端子から常に音声が出力されます。



各出力の仕様は次のとおりです。

	A-3606D	A-3612D	A-3624D	A-3648D
定格出力	60 W	120 W	240 W	480 W
ローインピーダンス	8 ～ 16 Ω	4 ～ 16 Ω		
ハイインピーダンス（100 系）	170 Ω	83 Ω	42 Ω	21 Ω

ご注意

- ローインピーダンスとハイインピーダンスの端子を同時に使用しないでください。本機または周辺機器の故障の原因となります。
- 出力インピーダンス設定スイッチ（32）が「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときにローインピーダンス端子に接続しないでください。

メ　モ

ハイインピーダンスとローインピーダンスの切り換えは、出力インピーダンス設定スイッチ（32）で行います。

32. 出力インピーダンス設定スイッチ
スピーカー出力を、ローインピーダンスかハイインピーダンスに切り換えます。

100 系　　：ハイインピーダンス
4 ～ 16 Ω*2：ローインピーダンス

ご注意

- このスイッチの切り換えは、電源オフにした状態で行ってください。電源オンの状態では切り換えできません。
- 電源オンの状態でスイッチを操作した場合、即時に設定は切り換わりませんが、その後電源をオフにし、再び電源をオンにすると設定が切り換わります。

*1 0 dB = 1 V
*2 A-3606D の場合：8 ～ 16 Ω

33. ゾーン制御入力端子

短絡電流：10 mA 以下、開放電圧：DC35 V 以下、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、4P）
ゾーンを選択するための制御信号を入力します。メイクされている間は、該当ゾーンが選択状態になり、ゾーン選択ボタン(5)の操作は無効になります。

ご注意

- ゾーン制御は出力インピーダンス設定スイッチ（32）が「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときのみ有効です。
- ゾーン選択ボタン（5）でゾーン選択中にこの端子をメイクしてからブレイクしても、ゾーン選択状態を維持します。
  この端子での制御を優先して、メイクしてからブレイクしたときにゾーン選択状態を解除するように設定を変更することもできます。
  （☞ 別冊の設定説明書*1）

34. ゾーン制御出力端子

オープンコレクター出力、耐電圧 DC30 V 以下、電流 25 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、4P）
他の機器のリモート制御に使用するための出力端子です。
選択されているゾーンに該当する端子をメイクします。

ご注意

ゾーン制御は出力インピーダンス設定スイッチ（32）が「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときのみ有効です。

35. ネットワーク端子［LAN］

RJ-45 ジャック
STP カテゴリー 5 規格以上のストレートケーブルを使って、100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
スイッチングハブを使用せずに、パソコンを直接接続することもできます。

36. ライン出力端子 1、2

0 dB*2、600 Ω、不平衡型、RCA ピンジャック× 2
ゾーン選択状態と連動させることができます。
ライン出力連動が OFF のときは、ゾーン選択にかかわらず、ライン出力端子 1、2 から信号が出力されます。
ライン出力連動が ON のときは、ゾーン 1 が選択されているときはライン出力端子 1 から、ゾーン 2 が選択されているときはライン出力端子 2 から信号が出力されます。
連動の設定は、ライン出力連動スイッチ（19）で行います。

37. 録音出力端子

0 dB*2、600 Ω、不平衡型、RCA ピンジャック
SUB 出力の音声が出力されます。
（☞ P. 30「ブロックダイヤグラム」）
外部録音機器などを接続して、放送内容の録音に使用します。

38. パワーアンプ入力端子

0 dB*2、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック
ライン出力端子に接続されたシグナルプロセッサーの出力などを入力します。
（☞ P. 18「ライン出力とパワーアンプ間の外部機器接続のしかた」）
ピンプラグを差し込むと、本機内部のパワーアンプ部とプリアンプ部が切り離されます。

39. 入力 7 端子

–20 dB*2、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック× 2
ライン専用の入力端子です。

40. BUS 設定スイッチ（入力 5、6）

入力 5、6 から入力された音声を BUS 1、2 のどちらに送るかをスライドスイッチで設定します。

出力先選択スイッチ	使用できる入力端子
BUS 1	BUS 1 専用入力端子 （着脱式ターミナルブロック）
BUS 2	BUS 2 専用入力端子 （RCA ピンジャック× 2）

（☞ P. 30「ブロックダイヤグラム」）

41. BUS 2 専用入力端子（入力 5、6）

–20 dB*2、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック× 2
この端子を使用する場合は、BUS 設定スイッチ（40）で「BUS 2」を選択してください。
（☞ P. 30「ブロックダイヤグラム」）

42. BUS 1 専用入力端子（入力 5、6）

–60 dB*2、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3P）、
この端子を使用する場合は、BUS 設定スイッチ（40）で「BUS 1」を選択してください。
（☞ P. 30「ブロックダイヤグラム」）

*1 TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。
*2 0 dB = 1 V

接続のしかた

端子に外部配線をするには、教育された人による取り付けを行ってください。

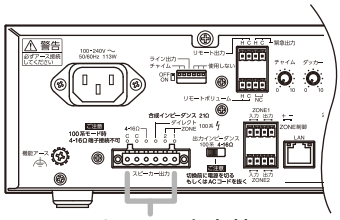
■ スピーカーの接続

着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。

ご注意

- 4 ～ 16 Ω*端子（ローインピーダンス）と 100 系端子（ハイインピーダンス）は、同時に使用しないでください。
- 出力インピーダンス設定スイッチが「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときに 4 ～ 16 Ω*端子に接続しないでください。

A-3606D/3612D/3624D/3648D

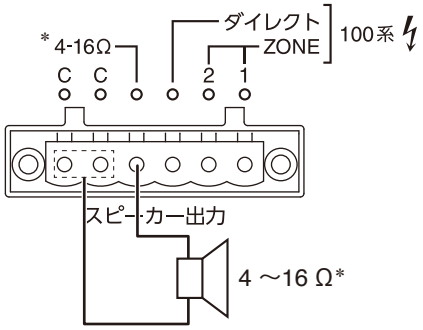


スピーカー出力端子

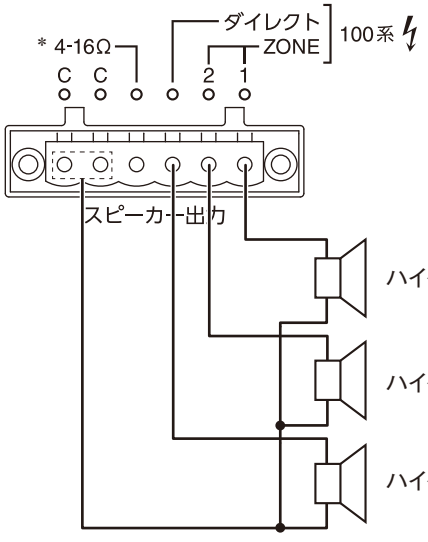
メ　モ

- C 端子はどちらに接続しても構いません。
- 推奨電線は、次の IV または HIV 線です。
  単線　：φ 0.32 ～ 2.0 mm
  より線：0.05 ～ 3.3 mm²

● ローインピーダンスの場合



● ハイインピーダンスの場合



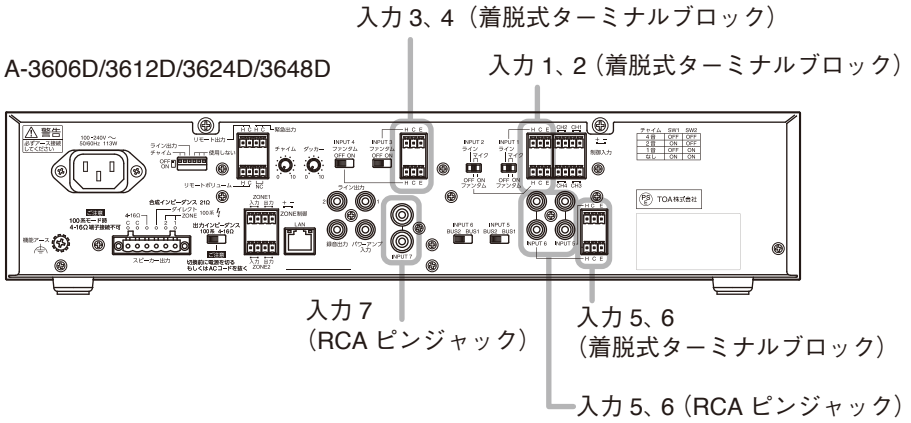
合成インピーダンス：
170 Ω（A-3606D）
83 Ω（A-3612D）
42 Ω（A-3624D）
21 Ω（A-3648D）

ハイインピーダンス設定時の音声出力について、詳しくは、P. 11「31. スピーカー出力端子」をお読みください。

* A-3606D の場合：8 ～ 16 Ω

■ 入力端子の接続と設定

● 接続のしかた



入力 5、6 は BUS 設定スイッチ（☞ 次ページ）により、使用する端子が異なります。
使用する入力端子に応じて、接続してください。

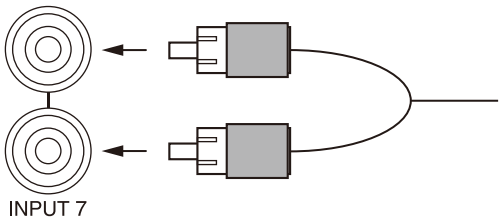
［入力 1 ～ 6（5、6 は BUS 1 へ出力時）］

（2 心シールド線の場合）

（1 心シールド線の場合）

着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。

［入力 5 ～ 7（5、6 は BUS 2 へ出力時）］



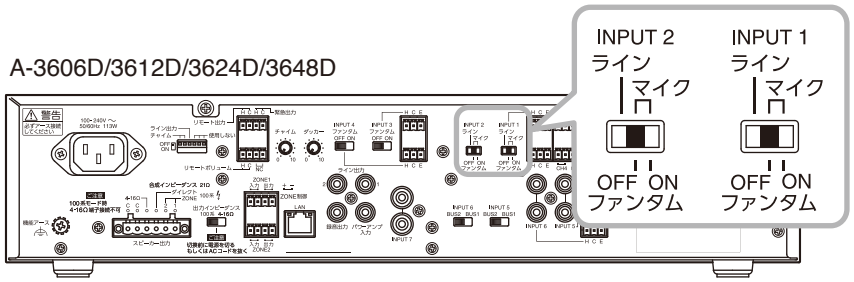
● 入力 1 ～ 6 の設定

入力 1 ～ 6 には、それぞれの入力に対応する設定スイッチがあります。必要に応じて次のとおりに設定してください。

［入力 1、2］

接続する音源のレベルと、マイク入力の場合にファンタム電源を使用するかどうかを設定します。

A-3606D/3612D/3624D/3648D

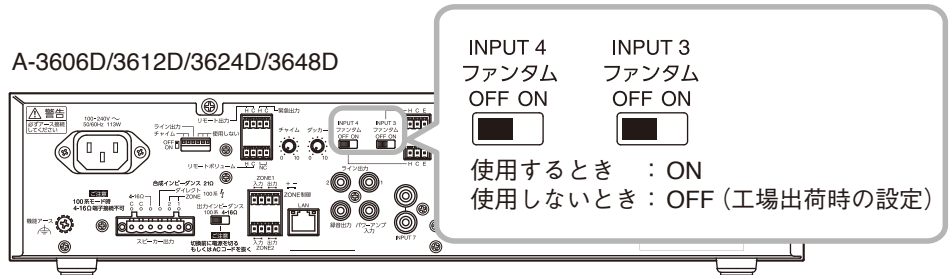


入力音源	スイッチの位置	入力仕様
ラインレベル	ライン	–20 dB *、600 Ω
マイクレベル、ファンタム電源不要	マイク – ファンタム OFF（工場出荷時の設定）	–60 dB *、600 Ω
マイクレベル、ファンタム電源必要	マイク – ファンタム ON	–60 dB *、600 Ω

［入力 3、4］

マイク専用入力の入力 3、4 で、ファンタム電源を使用するかしないかを設定します。

A-3606D/3612D/3624D/3648D

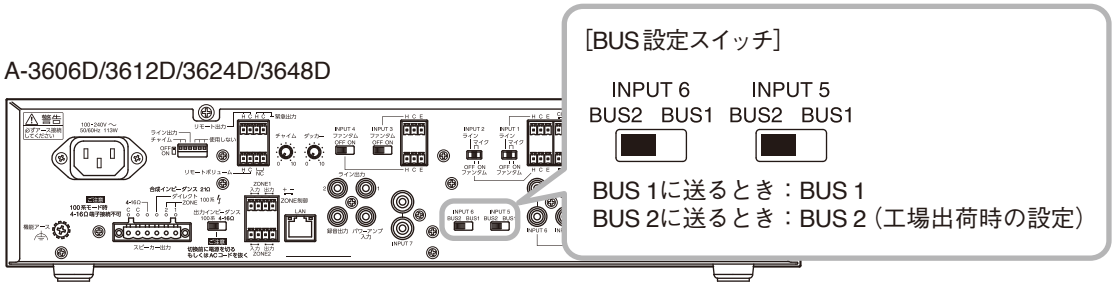


入力仕様：–60 dB *、600 Ω、電子バランス

［入力 5、6］

入力された音声を、BUS 1 または BUS 2 のどちらに送るかを設定します。
BUS 1 と BUS 2 はダッカー機能が働いたときの動作が異なります。（☞ P. 20「ダッカー量の調節」）

A-3606D/3612D/3624D/3648D



入力仕様：–60 dB *、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3 P）（BUS 1 へ出力時）
–20 dB *、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック（BUS 2 へ出力時）

＊ 0 dB = 1 V

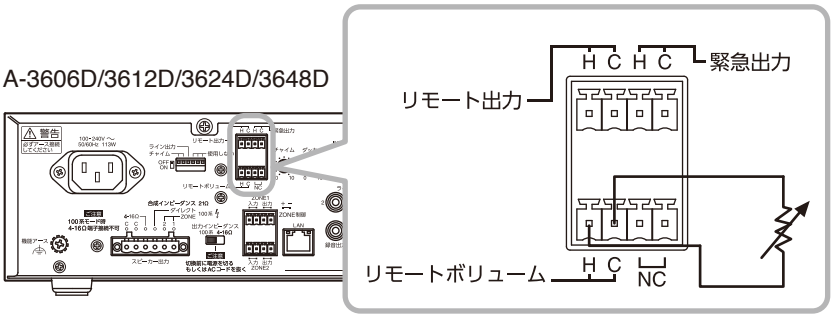
■ リモートマスターボリューム端子の接続のしかた

外部に音量調節器を接続してリモートで音量調節ができます。音量をリモート調節する場合は、あらかじめ主音量調節つまみで音量を調節してください。主音量調節つまみで調節されたレベルがリモート制御できる最大レベルです。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。

ご注意

- 主音量つまみを最小にしないでください。主音量つまみが最小になっていると、この端子で最大に設定しても音が出ません。（☞ P. 21「ボリュームの調節」）
- 電源線や蛍光灯などの照明器具類から発生する雑音の影響を受けて、誤動作を起こす場合があります。その場合はシールド線を用いて配線するか、電源線や蛍光灯などから十分距離を離して接続してください。

A-3606D/3612D/3624D/3648D

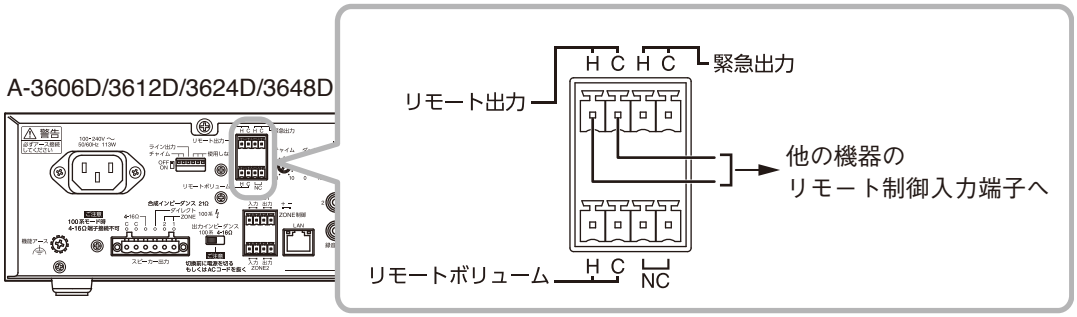


接続できる音量調節器：10 kΩ、B カーブの可変抵抗器

■ 電源リモート出力端子の接続のしかた

他の機器をリモート制御するときに使用します。本機の電源オンのときにメイクします。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。

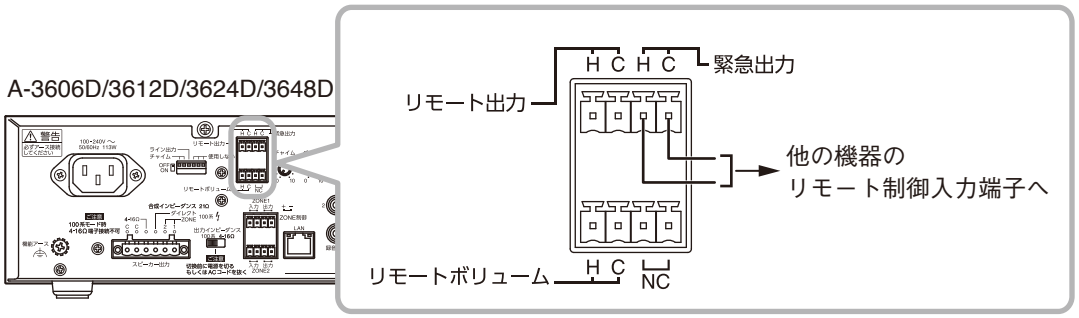
A-3606D/3612D/3624D/3648D



出力仕様：オープンコレクター出力、耐電圧 DC30 V 以下、電流 25 mA 以下

■ 緊急制御出力端子の接続のしかた

他の機器をリモート制御するときに使用します。本機が緊急放送中にメイクします。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。



出力仕様：オープンコレクター出力、耐電圧 DC30 V 以下、電流 25 mA 以下

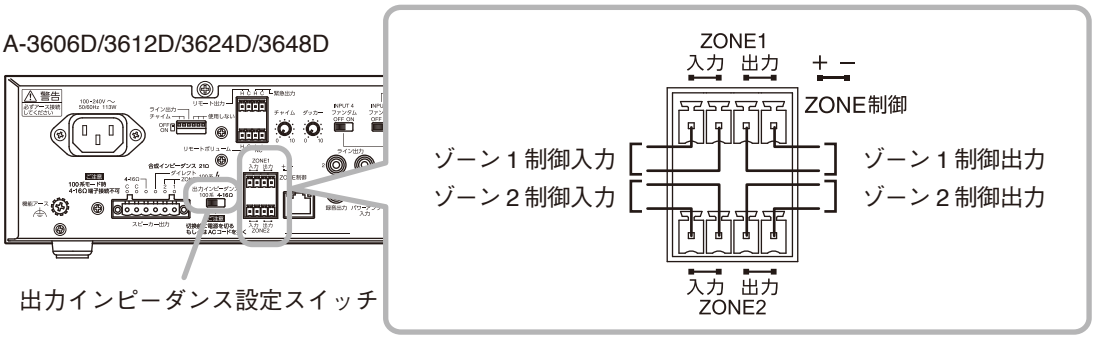
■ ゾーン制御入出力端子の接続のしかた

制御信号により、ゾーン選択ができます。
また、ゾーン選択されているときにメイクする制御信号を出力します。他の機器のリモート制御に使用できます。

ご注意

ゾーン制御は、出力インピーダンス設定スイッチが「100 系」（ハイインピーダンス）に設定されているときのみ有効です。

着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。

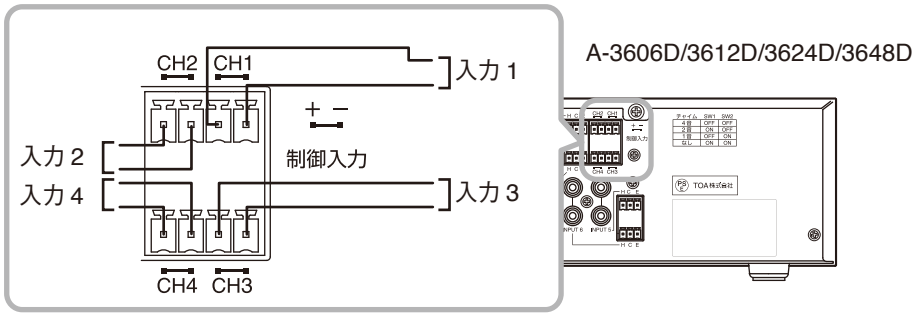


制御入力信号仕様：短絡電流：10 mA 以下、開放電圧：DC35 V 以下
制御出力信号仕様：オープンコレクター出力、耐電圧 DC30 V 以下、電流 25 mA 以下

■ 制御入力端子の接続のしかた

接点信号を入力して、優先放送を制御できます。

優先設定のしかたは、別冊の設定説明書をお読みください。設定説明書は TOA データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。
着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 19 をお読みください。



入力信号仕様：短絡電流：10 mA 以下、開放電圧：DC35 V 以下

■ ライン出力とパワーアンプ間の外部機器接続のしかた

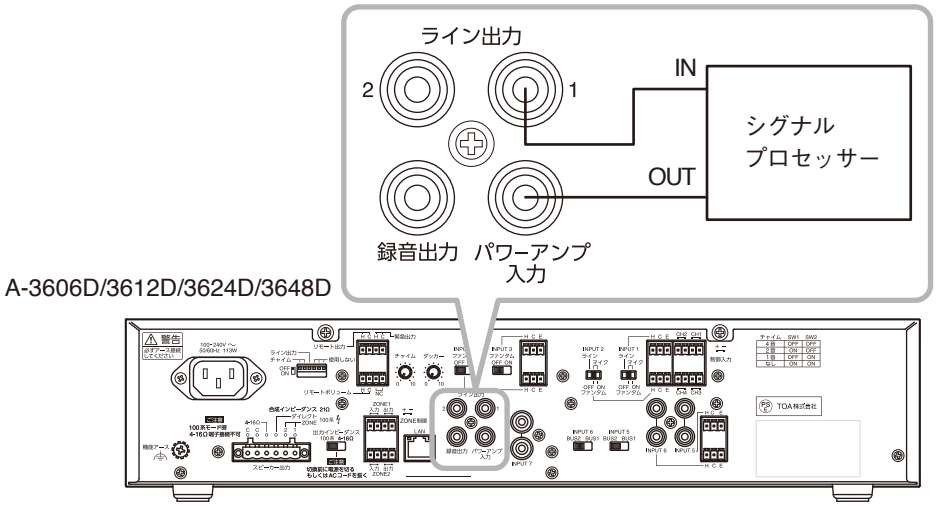
本機のプリアンプ部（ライン出力端子）とパワーアンプ部（パワーアンプ入力端子）の間にイコライザーやリミッターなどのシグナルプロセッサーを接続して、最適な音に調節できます。

ご注意

- ライン出力連動スイッチは OFF の状態で使用してください。
- 本機のパワーアンプ入力端子にピンプラグを挿入すると、プリアンプ部とパワーアンプ部が内部で切り離されます。

メ　モ

ライン出力は、1 または 2 のどちらでも使用できます。



ライン出力仕様　　：0 dB *、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック
パワーアンプ入力仕様：0 dB *、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック

* 0 dB = 1 V

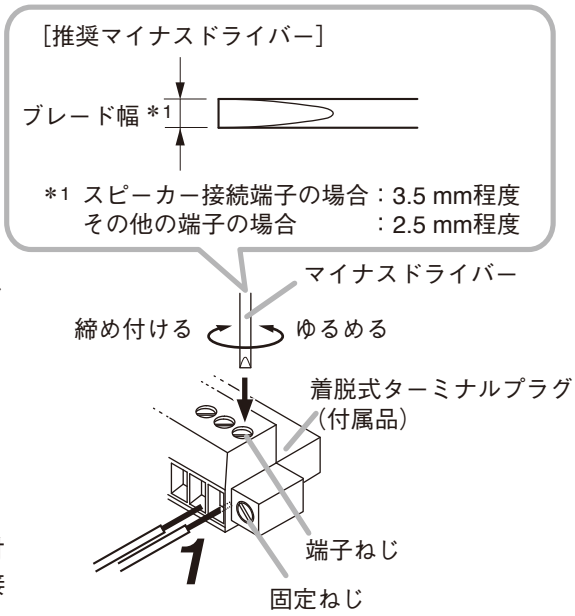
■ 着脱式ターミナルプラグの接続のしかた

1 着脱式ターミナルプラグに線材を接続する。

1-1 端子ねじをゆるめて、線材を差し込む。

1-2 端子ねじをしっかりと締め付ける。

線材を引っ張って抜けないことを確認してください。
抜けたら、端子ねじをゆるめてやり直してください。



2 ターミナルプラグを機器側のターミナルブロックに差し込む。

3 固定ねじがある場合は、固定ねじを締め付ける。

ご注意

- 手順の 1 と 2 を逆にしないでください。端子ねじを締め付けるときに、内部基板のコネクターピンに力が加わり、接触不良になる恐れがあります。
- ターミナルプラグを抜くときは、まっすぐ引き抜いてください。斜め方向に無理に引き抜くと、ターミナルプラグまたはターミナルブロックの破損の原因となります。

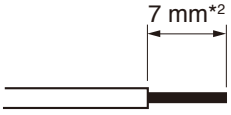
メ　モ

- 接続電線サイズ

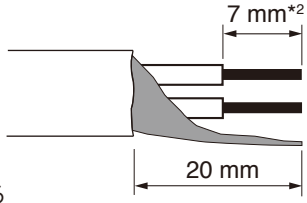
	スピーカー接続端子	その他の端子
導体断面積	0.05 ～ 3.3 mm^2	0.08 ～ 2.0 mm^2
AWG	AWG30 ～ 12 相当	AWG28 ～ 14 相当

- 線材のむきしろ

［単線、より線］



［シールド線］



*2 絶縁スリーブ付き棒端子を使用する場合は8 mm以上とし、はみ出た分はカットしてください。

ご注意

より線、シールド線を使用するときは、むきしろ部分にはんだめっきをしないでください。
線材を締め付けたときに、はんだスズが破砕し接触抵抗が高くなるため、接続部の温度が異常に上昇することがあります。

- 1 つの端子に 2 本の線材を接続する場合や信号線を接続する場合などに、心線がばらけるのを防ぐためには、絶縁スリーブ付き棒端子で圧着してください。

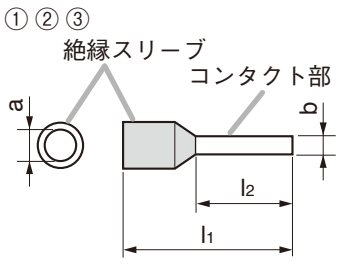
推奨棒端子：信号線用（フェニックス・コンタクト製）

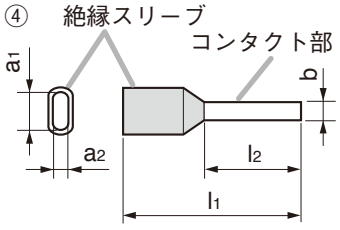
	品 番	a	b	l_1	l_2
①	AI 0,34-8 TQ	2 mm	0.8 mm	12.5 mm	8 mm
②	AI 0,5-8 WH	2.5 mm	1.1 mm	14 mm	8 mm

推奨棒端子：スピーカー接続線用（フェニックス・コンタクト製）

	品 番	a	a_1	a_2	b	l_1	l_2
③	AI 1,5-8 BK	3.4 mm	—	—	1.8 mm	14 mm	8 mm
④	AI-TWIN 2 x 1,5-8 BK	—	6.6 mm	3.6 mm	2.3 mm	16 mm	8 mm

かしめ工具：CRIMPFOX 10S（フェニックス・コンタクト製）



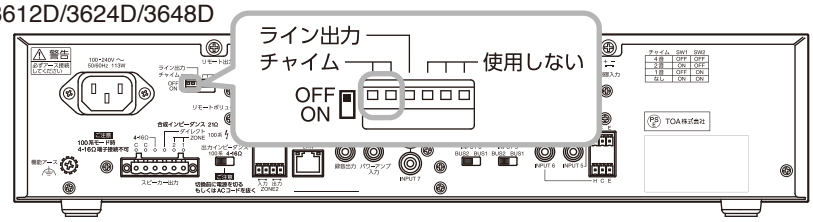


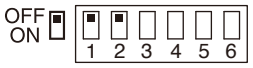
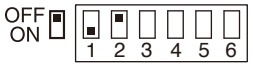
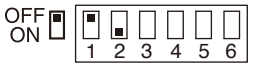
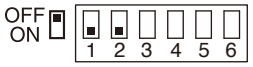
設定のしかた

■ チャイム音の設定

使用するチャイム音を、DIP スイッチのスイッチ 1、2 で設定します。

A-3606D/3612D/3624D/3648D



使用するチャイム音	スイッチ 1	スイッチ 2	スイッチの図
4 音チャイム （工場出荷時の設定）	OFF	OFF	
2 音チャイム	ON	OFF	
1 音チャイム	OFF	ON	
使用しない	ON	ON	

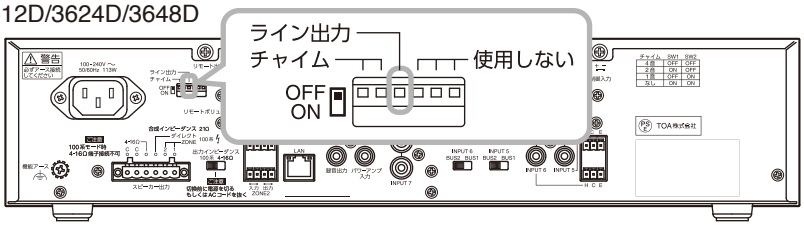
ご注意

- 優先放送機能（P. 23）の設定にかかわらず、チャイム音を使用する設定にした場合、チャイムが鳴っている間は BUS 2 への入力信号はミュートされます。
  チャイム音量の設定が最小で、チャイムが無音であっても、ミュートは実行されます。
- 「使用しない」に設定した場合は、BUS 2 への入力信号はミュートされません。

■ ライン出力連動スイッチの設定

ゾーン選択とライン出力の連動を、DIP スイッチのスイッチ 3 で設定します。

A-3606D/3612D/3624D/3648D



OFF：ゾーン選択にかかわらず、ライン出力端子 1、2 から信号が出力されます。（工場出荷時の設定）
ON　：ゾーン 1 が選択されているときはライン出力端子 1 から、ゾーン 2 が選択されているときはライン出力端子 2 から信号が出力されます。

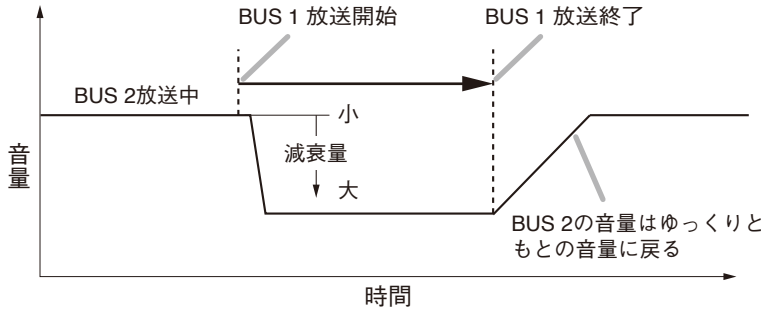
ダッカー量の調節

本機はダッカー機能を備えています。BUS 1 からアナウンスされると、BUS 2 に入力された音量を自動的に減衰させます。
各入力は BUS 1 または BUS 2 に、次のとおりに送られます。

入力番号	入力先
入力 1 ～ 4	BUS 1
入力 5、6	BUS 1、BUS 2 選択可能
入力 7	BUS 2

減衰量は、ダッカー量調節つまみで調節できます。時計回りに回すと減衰量が大きくなり、反時計回りに回すと減衰量が小さくなります。

BUS 1 の入力が終わると、BUS 2 の音量は自動的に元に戻ります。（☞ P. 30「ブロックダイヤグラム」）

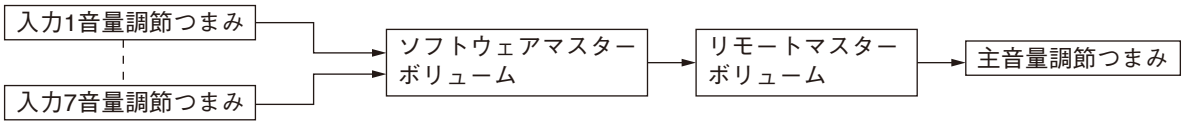


※ 反時計方向に回し切ったときは、BUS 2の音量は下がりません。

ボリュームの調節

本機では、ボリュームを次の 4 段階で調節できます。

- 入力 1 ～ 7 音量調節つまみ
- ソフトウェアマスターボリューム
- リモートマスターボリューム
- 主音量調節つまみ



いずれかのボリュームが最小になっていると、ほかのボリュームを最大に設定しても音が出ません。ソフトウェアマスターボリューム*1 またはリモートマスターボリューム（☞ P. 16）で調節する場合は、あらかじめ主音量調節つまみで音量を調節してください。主音量調節つまみで調節されたレベルが調節できる最大レベルです。
緊急放送に設定すると、主音量調節つまみ、ソフトウェアマスターボリューム、リモートマスターボリュームの設定値に関わらず、最大音量で放送されます*2。また、チャイムも最大音量で放送され、EQ と、高音調節つまみと低音調節つまみの特性がフラットになります。
緊急放送中は前面の緊急放送中表示灯が点灯し、緊急制御出力端子がメイクされます。

*1 ソフトウェアマスターボリュームは、ブラウザーを使用して調節します。詳しくは別冊の設定説明書をお読みください。設定説明書は、TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。
*2 各入力音量調節つまみは有効です。

スピーカーゾーン選択

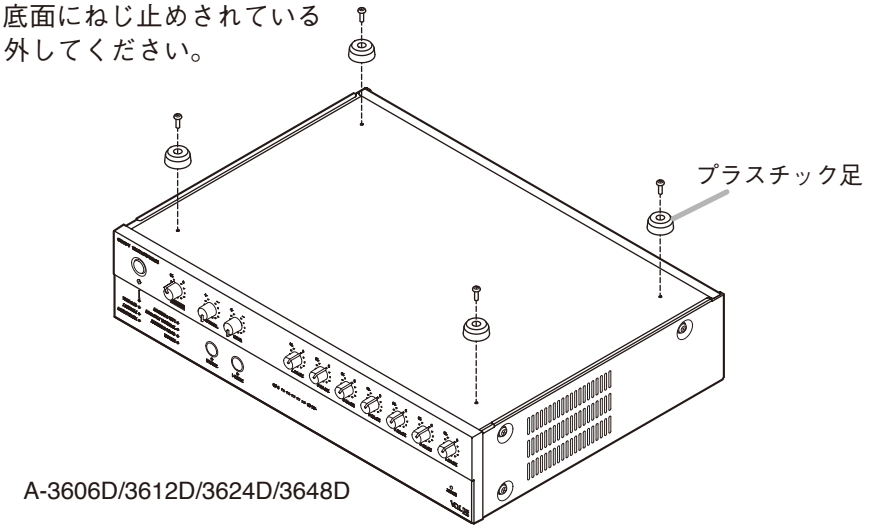
本機前面のゾーン 1 選択スイッチを押すか、ゾーン 1 制御入力端子に制御信号が入力されると、ゾーン 1 表示灯が点灯し、後面のゾーン 1 スピーカー出力端子に接続されているスピーカーから放送ができます。また、ゾーン 1 制御出力端子から制御信号が出力されます。
ゾーン 2 も同様の動作をします。
スピーカーゾーン選択の動作イメージは P. 29 をお読みください。

ご注意

スピーカーゾーン選択は、出力インピーダンス設定スイッチ（☞ P. 11）が「100 系」（ハイインピーダンス）時に設定されているときのみ有効です。
ハイインピーダンス設定時は、ゾーン選択スイッチの設定に関係なく、ダイレクトスピーカー出力端子から常に音声が出力されます。

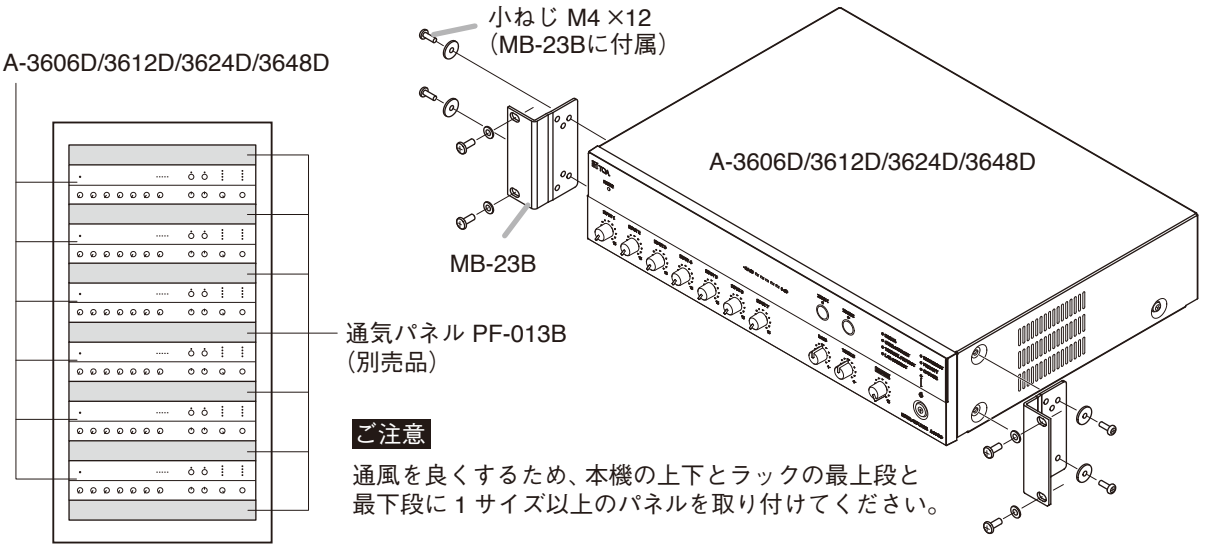
ラックに取り付けるとき

本機をラックに取り付けるときは、底面にねじ止めされている
プラスチック足を下図のように取り外してください。



ラックへの取り付けには、別売のラックマウント金具 MB-23B を使用してください。

⚠注意　別売のラックマウント金具 MB-23B に付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。



ご注意

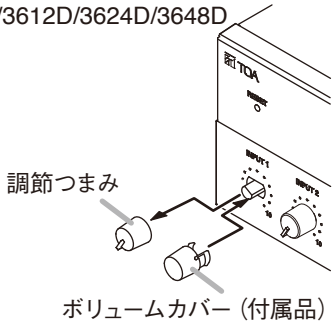
通風を良くするため、本機の上下とラックの最上段と
最下段に 1 サイズ以上のパネルを取り付けてください。

調節つまみの設定

出力レベルは、個別の音量調節つまみで調節できます。

音楽の再生やアナウンスの場合、対応する音量調節つまみを調節して、赤色の LED レベルメーターが点灯し続けないようにします。赤色の LED レベルメーターが点灯し続けているときは、音質が低下します。

音量調節つまみと低音／高音調節つまみの設定が誤って変更されないようにするには、調節つまみを希望する位置に設定した後で取り外し、代わりに付属のボリュームカバーを取り付けます。



優先放送機能

優先放送に関する設定は、ブラウザーを使用して行います。詳しくは、別冊の設定説明書*をお読みください。

■ 優先放送

優先放送機能は、制御信号または音声信号が入力されたときに、それをトリガーとして指定の音声信号をミュートする機能です。
トリガーとなる信号には 6 段階の優先度が設定でき、複数のトリガーが入力されたときは、優先度の高いものが優先されます。
優先放送時は、前面の優先放送中表示灯が点灯します。
優先放送には、標準モードとマニュアルモードがあり、通電時は標準モードで起動します。モードの切り換えはブラウザーから行います。詳しくは、別冊の設定説明書*をお読みください。

* 設定説明書は TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

■ 優先放送のモード

● 標準モード

標準モードで優先放送を行うときは、下記 6 つの信号をトリガーとして優先放送を起動することができます。
- 制御入力 1 ～ 4（接点）
- 音声検知 1 ～ 2（入力 1 と入力 2 の音声入力）

制御入力と音声検知の違いは次のとおりです。

	トリガーとなる信号	ミュートできる入力	設定できる放送	電源オフ時の電源起動	チャイム音の使用
制御入力	接点入力 （接点 1 ～ 4）	入力 1 ～ 7	緊急放送 優先放送	可	可
音声検知	音声入力 （入力 1 ～ 2）	音声検知に設定した以外の入力	優先放送	不可	不可

優先放送はトリガーごとに次の項目をブラウザーから編集できます。また、何もトリガーがない通常放送のときにも指定の音声信号をミュートすることができます。詳しくは別冊の設定説明書をお読みください。
設定説明書は TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

項目	設定内容
有効／無効	有効に設定した場合は、そのトリガーが入力されたときに、優先放送を行います。
優先度	● 6 段階の優先度を設定できます。ただし、同じ優先度を複数のトリガーに設定することはできません。つまり、1 つのトリガーに対して 1 つの優先度しか設定できません。 ● 優先度が一番高いトリガーは、緊急放送に設定できます。 ※ 緊急放送は制御入力のみ設定可能 ● ある優先放送中に、より高い優先度のトリガーが入力された場合、高い優先度のトリガーの優先放送に切り換わります。 ● ある優先放送中に、より低い優先度のトリガーが入力された場合、低い優先度のトリガーは無視されます。
チャイムを鳴らす／鳴らさない	「鳴らす」に設定したトリガーが入力されたときに、設定されたチャイムを鳴らします。ただし、トリガーが無視された場合には、チャイムは鳴りません。 ※ チャイムは制御入力のみ設定可能
ミュートする入力／ミュートしない入力	優先放送時に「ミュートする」に設定された入力をミュートします。 ※ ミュート解除後、元の音量に復帰するまでに数秒かかることがあります。

ご注意
- 優先度が上位のトリガーの入力が停止した場合に、チャイム音が設定されている下位のトリガーが入力され続けているときは、優先放送が切り換わってもチャイム音を出力しません。
- 優先度の設定にかかわらず、チャイムが鳴っている間は、BUS 2 への入力信号はミュートされます。

● マニュアルモード

マニュアルモードでは、ブラウザーから特定の音声信号をミュートすることができます。
本機の動作確認をするときなどに使用します。（☞ 別冊の設定説明書*）
マニュアルモードでは本機のネットワーク接続確認表示灯が点灯します。

* TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

■ 緊急放送

優先度の一番高い優先放送を緊急放送に設定できます。
緊急放送に設定すると、主音量調節つまみ、ソフトウェアマスターボリューム、リモートマスターボリュームの設定値に関わらず、最大音量で放送されます*。また、チャイムも最大音量で放送され、EQ と、高音調節つまみと低音調節つまみの特性がフラットになります。
緊急放送中は前面の緊急放送中表示灯が点灯し、緊急制御出力端子がメイクされます。

* 各入力音量調節つまみは有効です。

ご注意
音声検知による優先放送は、緊急放送に設定できません。

■ 通常放送

電源が入っておりトリガーが何も入力されていない状態の放送を通常放送と呼びます。

ご注意
通常放送時にチャイムを鳴らす設定はできません。

■ 制御入力による優先放送、緊急放送時と電源オン／オフの関係

[本機が電源オフ状態のとき]
- 優先放送、緊急放送が開始すると、電源オンになります。
- 優先放送中、緊急放送中に電源を切ろうとしても*、操作は無効になります。
- 優先放送、緊急放送が終了すると、電源はオフになります。ただし、優先度の高い音声検知による優先放送が重なっているときは、音声検知による優先放送が終了した後に電源がオフになります。

[本機が電源オン状態のとき]
- 優先放送、緊急放送の開始・終了に関わらず、電源オンの状態を保ちます。
- 優先放送中、緊急放送中に電源を切ろうとしても*、操作は無効になります。

* 本機前面の電源スイッチを押す、またはブラウザー画面の Power ON チェックボックスをクリックすることを指します。

■ 工場出荷時の設定

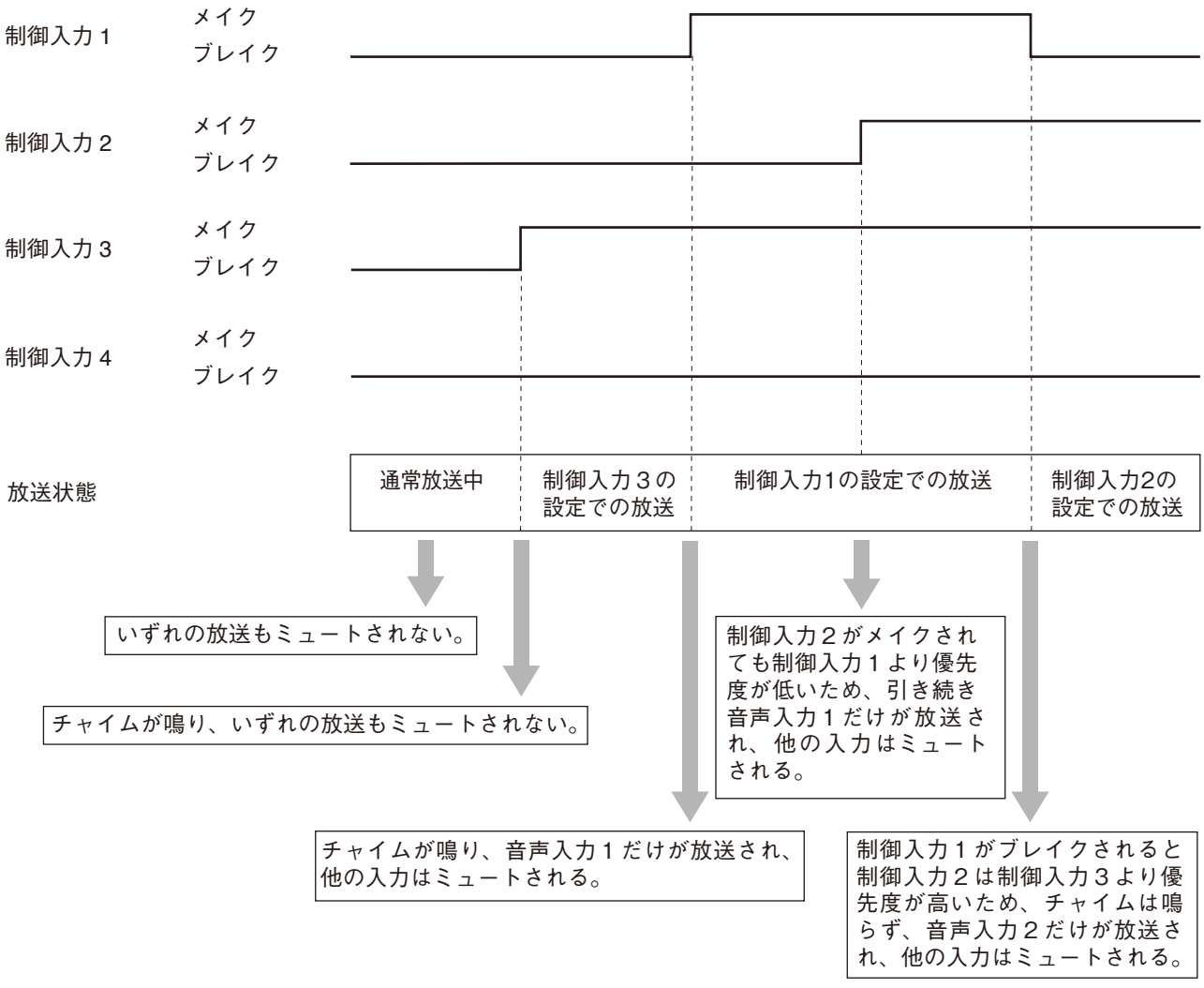
[工場出荷時の設定一覧表]

トリガー	優先度	緊急	チャイム	音声入力							状態
				1	2	3	4	5	6	7	
制御入力１	高	未設定	●	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	有効
制御入力２		―	●	🔕	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	有効
制御入力３		―	●	●	●	●	●	●	●	●	有効
制御入力４		―	🔕	●	●	●	●	●	●	●	有効
音声検知（入力１）		―	🔕	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	無効
音声検知（入力２）	低	―	🔕	🔕	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	無効
通常放送	―	―	―	●	●	●	●	●	●	●	―

※ チャイム欄で「🔕」となっている入力はチャイムを鳴らさない、「●」となっている入力はチャイムを鳴らす設定です。
※ 音声入力欄で「🔕」となっている入力はミュートする、「●」となっている入力はミュートしない設定です。
※ 標準モードで起動します。
※ 背景がグレーのセルは変更できません。
※「ー」は機能が設定できないことを表します。

工場出荷状態での動作は次のとおりです。

[動作イメージ]



■ 設定例と動作イメージ

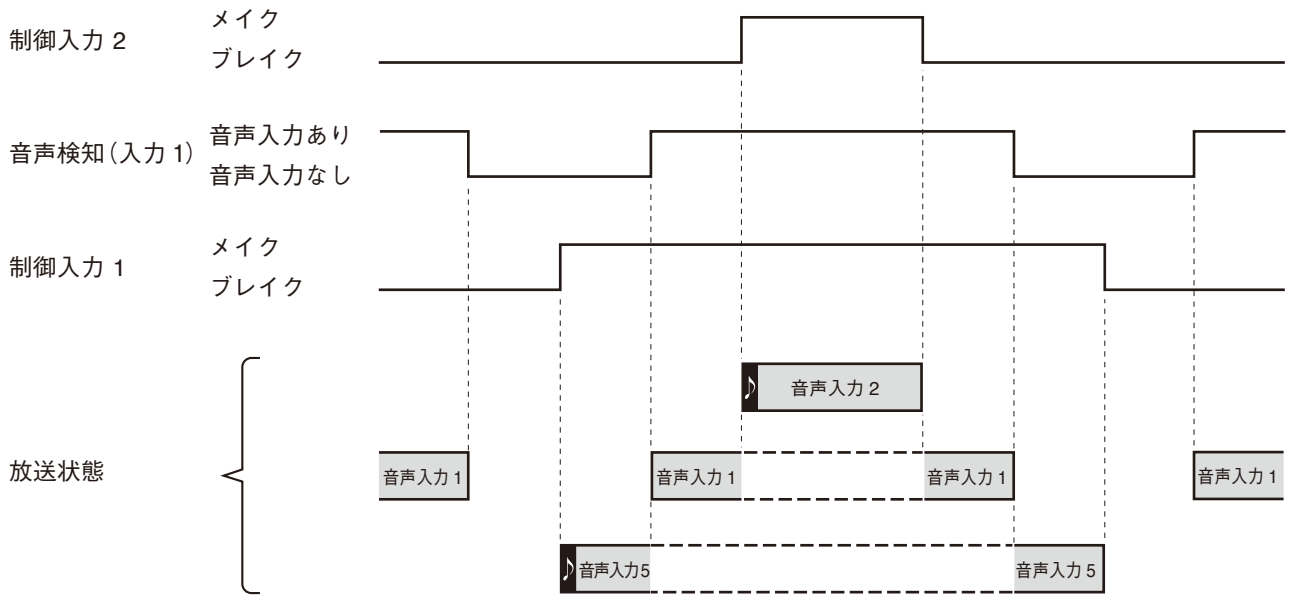
● 通電時で電源オンの場合

[設定一覧表]

トリガー	優先度	緊急	チャイム	音声入力							状態
				1	2	3	4	5	6	7	
制御入力 2	高	未設定	●	🔇	●	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	有効
音声検知（入力 1）		―	🔇	●	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	有効
制御入力 1		―	●	🔇	🔇	🔇	🔇	●	🔇	🔇	有効
制御入力 3		―	●	●	●	●	●	●	●	●	無効
制御入力 4		―	🔇	●	●	●	●	●	●	●	無効
音声検知（入力 2）	低	―	🔇	🔇	●	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	無効
通常放送	―	―	―	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	―

※ チャイム欄で「🔇」となっている入力はチャイムを鳴らさない、「●」となっている入力はチャイムを鳴らす設定です。
※ 音声入力欄で「🔇」となっている入力はミュートする、「●」となっている入力はミュートしない設定です。
※ 背景がグレーのセルは変更できません。
※「―」は機能が設定できないことを表します。

[動作イメージ]



※ ♪は放送開始時のチャイムを表します。
※ ▭ は出力中の放送を表します。
※ ┈┈ は起動中だが優先度が低いため、放送されていない状態を表します。

● 通電時で電源オフの場合

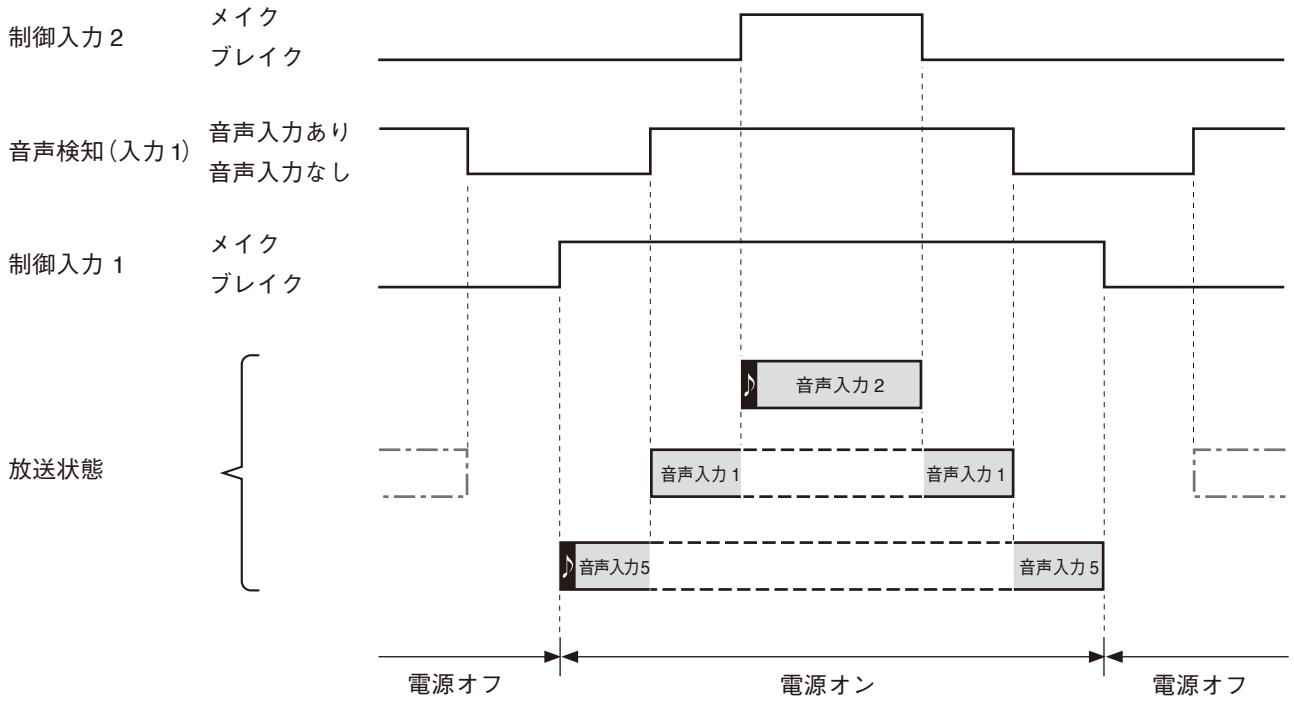
通電時で電源がオフの場合、制御入力がメイクされている間、電源がオンになります。
電源がオンになったときに優先度に応じて、設定した音声が出力されます。
電源がオフの状態で音声検知による入力があっても、電源はオンにはなりません。

[設定一覧表]

トリガー	優先度	緊急	チャイム	音声入力							状態
				1	2	3	4	5	6	7	
制御入力２	高	未設定	●	🔇	●	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	有効
音声検知（入力１）		―	🔇	●	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	有効
制御入力１		―	●	🔇	🔇	🔇	🔇	●	🔇	🔇	有効
制御入力３		―	●	●	●	●	●	●	●	●	無効
制御入力４		―	🔇	●	●	●	●	●	●	●	無効
音声検知（入力２）	低	―	🔇	🔇	●	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	無効
通常放送	―	―	―	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	🔇	―

※ チャイム欄で「🔇」となっている入力はチャイムを鳴らさない、「●」となっている入力はチャイムを鳴らす設定です。
※ 音声入力欄で「🔇」となっている入力はミュートする、「●」となっている入力はミュートしない設定です。
※ 背景がグレーのセルは変更できません。
※「ー」は機能が設定できないことを表します。

[動作イメージ]



※ ♪は放送開始時のチャイムを表します。
※ ▭は出力中の放送を表します。
※ ▭は起動中だが優先度が低いため、放送されていない状態を表します。
※ ▭は音声検知のトリガーは入っているが、電源オフのため放送されていない状態を表します。

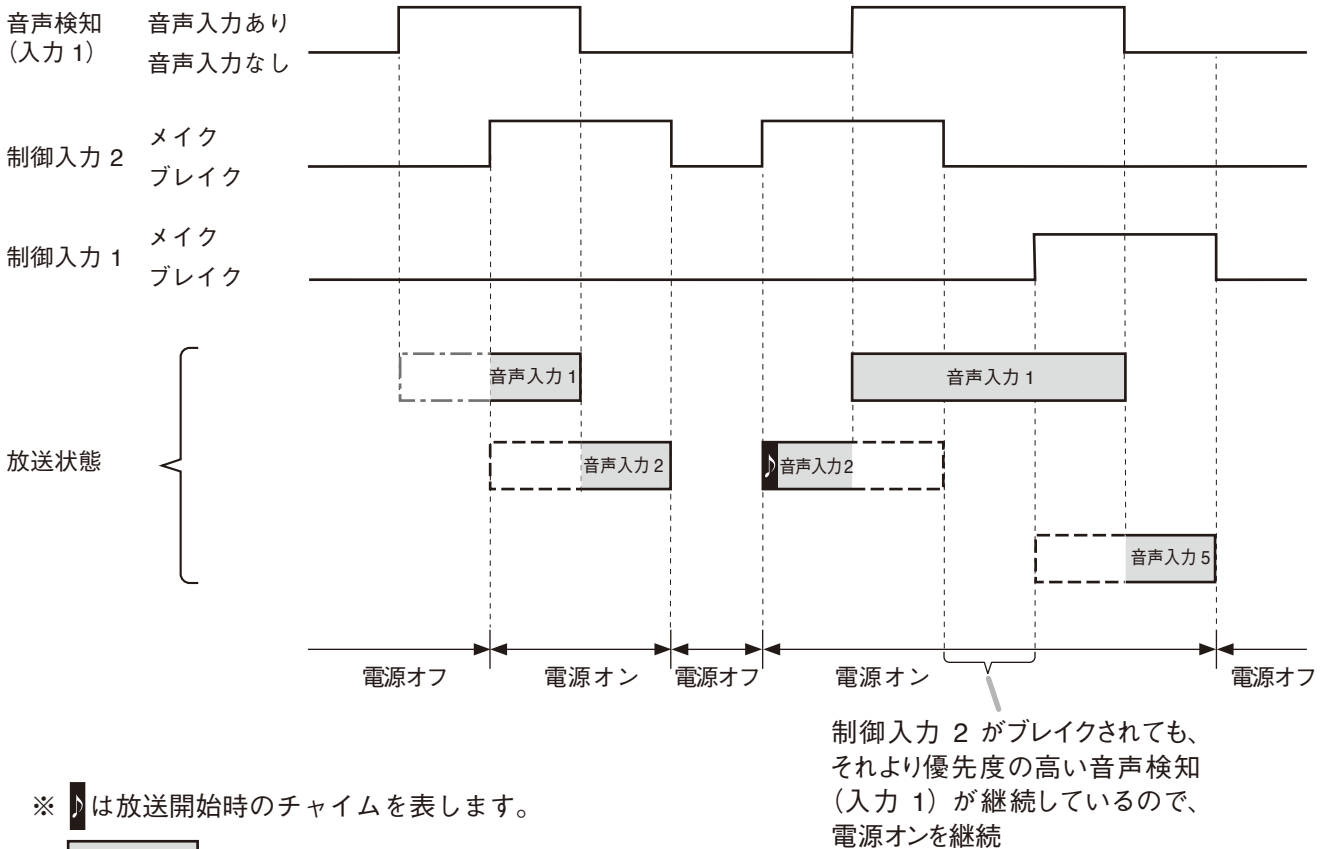
次のようなときのみ、音声検知による入力だけがある状態で電源がオンになります。
制御入力とそれよりも優先度の高い音声検知による入力が重なると、制御入力がすべてブレイクされた後も、音声検知による入力が終わるまで、電源オンの状態が継続します。

[設定一覧表]

トリガー	優先度	緊急	チャイム	音声入力							状態
				1	2	3	4	5	6	7	
音声検知（入力 1）	高	—	🔕	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	有効
制御入力 2		—	●	🔕	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	有効
制御入力 1		—	●	🔕	🔕	🔕	🔕	●	🔕	🔕	有効
制御入力 3		—	●	●	●	●	●	●	●	●	無効
制御入力 4		—	🔕	●	●	●	●	●	●	●	無効
音声検知（入力 2）	低	—	🔕	🔕	●	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	無効
通常放送	—	—	—	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	🔕	—

※ チャイム欄で「🔕」となっている入力はチャイムを鳴らさない、「●」となっている入力はチャイムを鳴らす設定です。
※ 音声入力欄で「🔕」となっている入力はミュートする、「●」となっている入力はミュートしない設定です。
※ 背景がグレーのセルは変更できません。
※「ー」は機能が設定できないことを表します。

[動作イメージ]

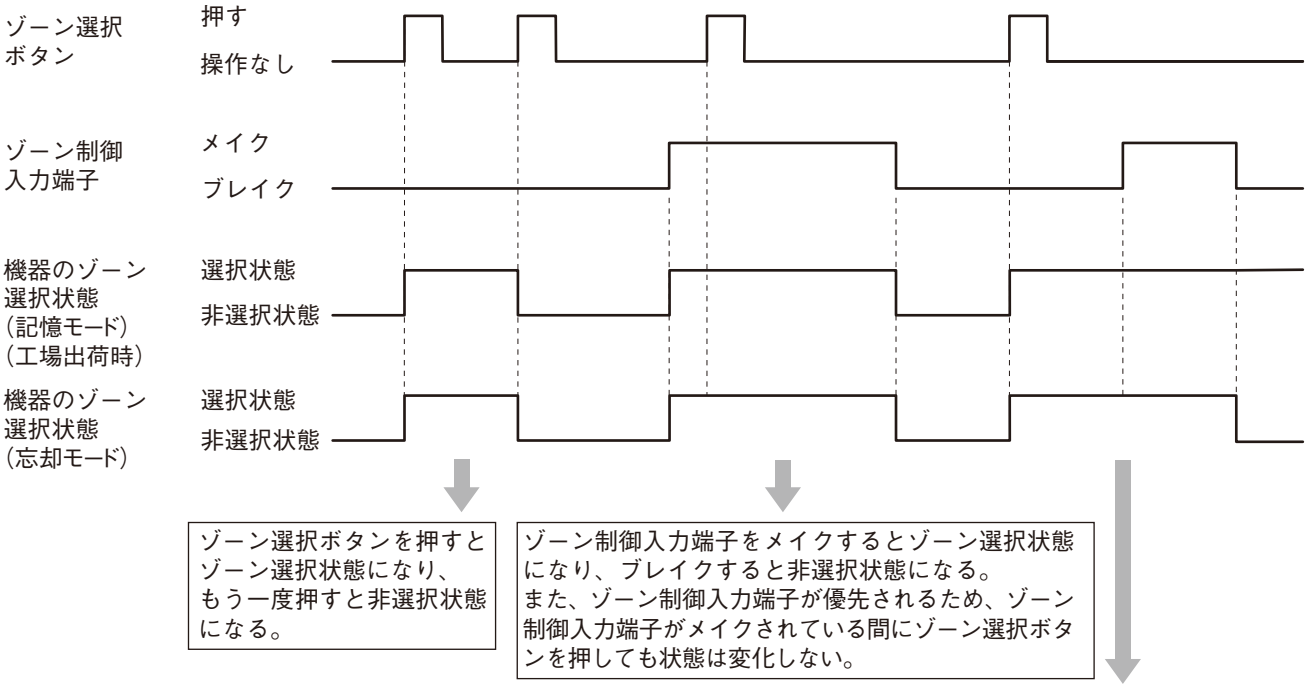


※ ♪は放送開始時のチャイムを表します。
※ ▭ は出力中の放送を表します。
※ ▭ は起動中だが優先度が低いため、放送されていない状態を表します。
※ ▭ は音声検知のトリガーは入っているが、電源オフのため放送されていない状態を表します。

スピーカーゾーン選択の動作イメージ

ゾーン選択ボタンとゾーン制御入力端子を使用したスピーカーゾーン選択の動作は、設定により異なります。設定の詳細は、別冊の設定説明書をお読みください。設定説明書は TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

［機器のゾーン選択状態の図］



メ　モ

ゾーン１と２の選択状態はそれぞれ個別に制御できます。

ブラウザーでの設定

パソコンを使用して、ブラウザー*1 から本機に接続し、ネットワーク経由で以下の設定、表示などを行うことができます。

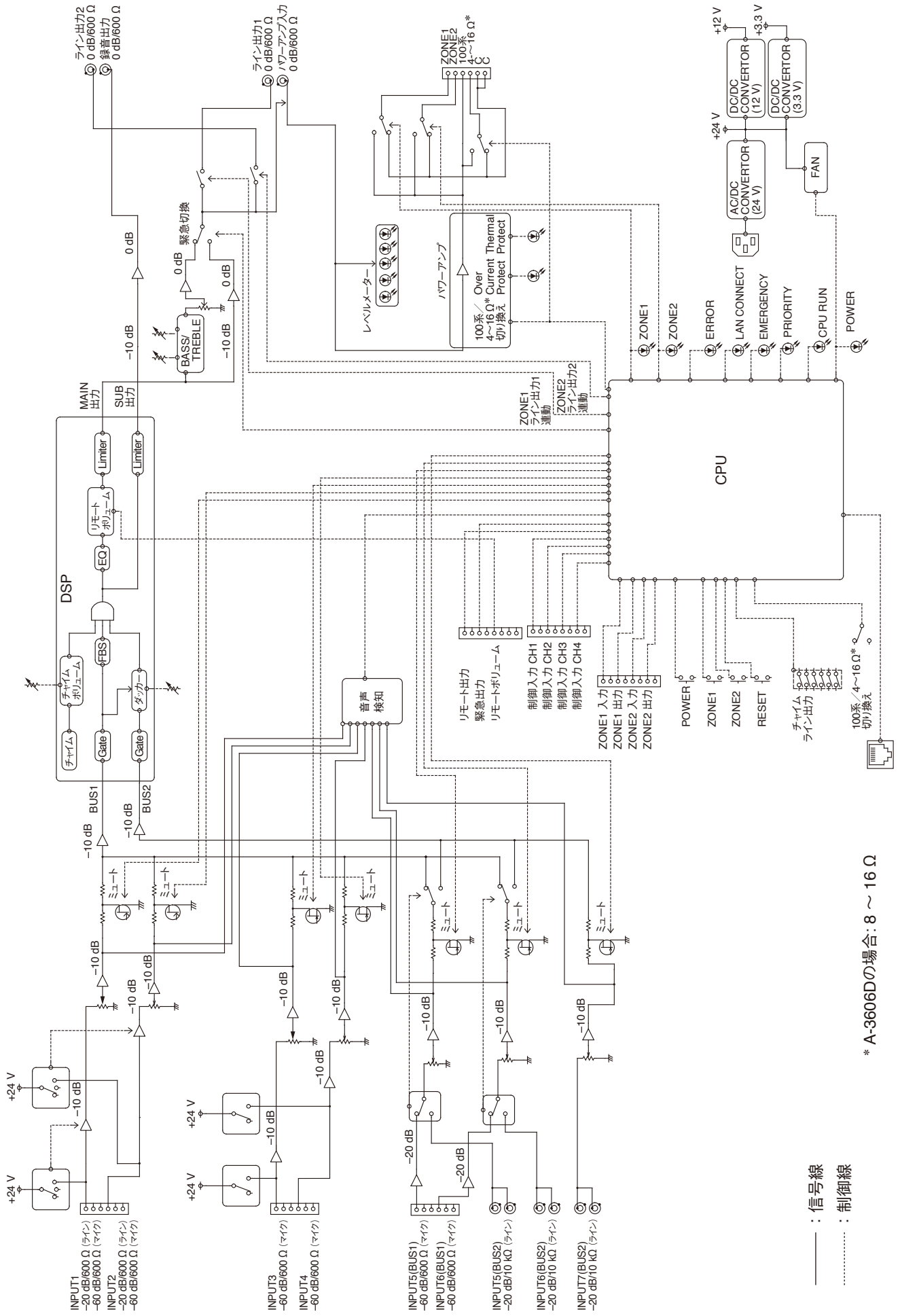
- ステータス表示*2
- EQ パラメーターの調整と表示
- 設定内容表示
- 入力優先の設定と表示
- ネットワーク設定
- アカウント設定
- ファームウェア更新
- ログファイルの出力
- 設定ファイルの入出力

*1 動作確認済みのブラウザーは、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox です。
※ Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
※ Google Chrome は、米国 Google LLC の米国およびその他の国における商標です。
※ Mozilla および Firefox は、米国 The Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標です。

*2 この画面で音量を最小に設定すると、本機前面の音量調節つまみを最大に設定しても音が出ません。また、この画面で設定した音量が最大設定値となり、本機の音量調節つまみではそれ以上に音量を大きくすることはできません。

詳しくは別冊の設定説明書をお読みください。設定説明書は TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）からダウンロードできます。

ブロックダイヤグラム


ライン出力2
0 dB/600 Ω
録音出力
0 dB/600 Ω
ライン出力1
0 dB/600 Ω
パワーアンプ入力
0 dB/600 Ω
ZONE1
ZONE2
100系
4~16 Ω*
+12 V
+3.3 V
DC/DC CONVERTOR (12 V)
DC/DC CONVERTOR (3.3 V)
+24 V
AC/DC CONVERTOR (24 V)
FAN
緊急切換
0 dB
−10 dB
BASS/ TREBLE
レベルメーター
パワーアンプ
100系／4~16 Ω* 切り換え
Over Current Protect
Thermal Protect
ZONE1
ZONE2
ERROR
LAN CONNECT
EMERGENCY
PRIORITY
CPU RUN
POWER
MAIN 出力
SUB 出力
ZONE1 ライン出力1 連動
ZONE2 ライン出力2 連動
CPU
DSP
Limiter
リモートボリューム
EQ
FBS
チャイムボリューム
ダッカー
チャイム
Gate
音声検知
BUS1
BUS2
ミュート
リモート出力
緊急出力
リモートボリューム
制御入力 CH1
制御入力 CH2
制御入力 CH3
制御入力 CH4
ZONE1 入力
ZONE1 出力
ZONE2 入力
ZONE2 出力
POWER
ZONE1
ZONE2
RESET
チャイム
ライン出力
100系／4~16 Ω* 切り換え
INPUT1
−20 dB/600 Ω (ライン)
−60 dB/600 Ω (マイク)
INPUT2
−20 dB/600 Ω (ライン)
−60 dB/600 Ω (マイク)
INPUT3
−60 dB/600 Ω (マイク)
INPUT4
−60 dB/600 Ω (マイク)
INPUT5(BUS1)
−60 dB/600 Ω (マイク)
INPUT6(BUS1)
−60 dB/600 Ω (マイク)
INPUT5(BUS2)
−20 dB/10 kΩ (ライン)
INPUT6(BUS2)
−20 dB/10 kΩ (ライン)
INPUT7(BUS2)
−20 dB/10 kΩ (ライン)
−20 dB
−10 dB
+24 V
* A-3606Dの場合: 8 ~ 16 Ω
：信号線
：制御線

仕　様

品番		A-3606D	A-3612D	A-3624D	A-3648D
電源		AC100 V、50/60 Hz			
定格出力		60 W	120 W	240 W	480 W
消費電力／電流		96 W（定格出力時）、40 W（電気用品安全法による）	175 W（定格出力時）、48 W（電気用品安全法による）	329 W（定格出力時）、70 W（電気用品安全法による）	636 W（定格出力時）、113 W（電気用品安全法による）
		200 mA（電源スイッチ OFF 時）			
周波数特性		50 Hz ～ 20 kHz ± 3 dB（1/8 定格出力）			
歪率		1% 以下（1 kHz 定格出力）、20 kHz LPF（AUX-0025）			
音質調整		100 Hz、10 kHz において± 10 dB 以上			
S N 比		マスターボリューム（最小）：88 dB 以上 マスターボリューム（最大）：76 dB 以上 INPUT 1 ～ 6　：55 dB 以上 INPUT 7　：72 dB 以上 （JIS-A）			
音声入力		INPUT 1、2　：−60 dB*（マイク）／−20 dB*（ライン）切り換え式、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3P） ※ マイクはファンタム電源 DC24 V（スイッチで ON/OFF 可能） INPUT 3、4　：−60 dB*、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3P） ※ ファンタム電源 DC24 V（スイッチで ON/OFF 可能） INPUT 5、6　：マイク（BUS 1）／ライン（BUS 2）切り換え式 マイク：−60 dB*、600 Ω、電子バランス、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、3P） ライン：−20 dB*、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック× 2 INPUT 7　：−20 dB*、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック× 2 パワーアンプ：0 dB*、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック			
入力バス		INPUT 1 ～ 4：BUS 1、INPUT 5、6：BUS 1/BUS 2 切り換え式、INPUT 7：BUS 2			
音声出力	スピーカー	ローインピーダンス（8 ～ 16 Ω）／ハイインピーダンス（ダイレクト、ZONE 1/ZONE 2：100系／合成 170 Ω）（ZONE 1/ZONE 2 は選択式、1 ZONE 当たり最大 60 W）	ローインピーダンス（4 ～ 16 Ω）／ハイインピーダンス（ダイレクト、ZONE 1/ZONE 2：100系／合成 83 Ω）（ZONE 1/ZONE 2 は選択式、1 ZONE 当たり最大 120 W）	ローインピーダンス（4 ～ 16 Ω）／ハイインピーダンス（ダイレクト、ZONE 1/ZONE 2：100系／合成 42 Ω）（ZONE 1/ZONE 2 は選択式、1 ZONE 当たり最大 240 W）	ローインピーダンス（4 ～ 16 Ω）／ハイインピーダンス（ダイレクト、ZONE 1/ZONE 2：100系／合成 21 Ω）（ZONE 1/ZONE 2 は選択式、1 ZONE 当たり最大 480 W）
		着脱式ターミナルブロック（5.00 mm、6P）			
	録音	0 dB*、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック			
	ライン 1、2	0 dB*、600 Ω、不平衡、RCA ピンジャック　（※ ゾーン選択と連動可能）			
信号処理		入力系統：ゲート、ダッカー、FBS 出力系統：イコライザー、ボリューム、リミッター			
制御入力		制御入力　：4系統、無電圧メイク接点、開放電圧：DC35 V 以下、短絡電流：10 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P） リモートボリューム：着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P） ゾーン制御入力　：無電圧メイク接点、開放電圧：DC35 V 以下、短絡電流：10 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、4P）			
制御出力		リモート出力　：オープンコレクター出力、耐電圧：DC30 V 以下、許容電流：25 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P） 緊急出力　：オープンコレクター出力、耐電圧：DC30 V 以下、許容電流：25 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.50 mm、4P） ゾーン制御出力：オープンコレクター出力、耐電圧：DC30 V 以下、許容電流：25 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（3.81 mm、4P）			
チャイム		1 音、2 音、上り 4 音またはチャイムなし（スイッチで選択可能）			

品番	A-3606D	A-3612D	A-3624D	A-3648D
表示	LED レベルメーター、電源表示灯、ネットワーク接続確認表示灯、優先放送中表示灯、緊急放送中表示灯、温度保護発生中表示灯、過電流保護発生中表示灯、CPU 動作中表示灯、異常発生中表示灯、ゾーン表示灯（1、2）			
使用温度範囲	−10 ～ +40℃			
使用湿度範囲	85%RH 以下（ただし結露のないこと）			
仕上げ	パネル：ABS 樹脂、黒（マンセル N1.0 近似色） ケース：表面処理鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、塗装			
寸法	420（幅）× 96.1（高さ）× 313.1（奥行）mm			
質量	5 kg			5.2 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m） 1
音声入力用
　着脱式ターミナルプラグ（3.81 mm、3P） 6
制御入出力用
　着脱式ターミナルプラグ（3.81 mm、4P） 4
リモート制御用
　着脱式ターミナルプラグ（3.50 mm、4P） 2
スピーカー出力用
　着脱式ターミナルプラブ（5.00 mm、6P） 1
ボリュームカバー 4

● 別売品

ラックマウント金具 ：MB-23B
通気パネル　　：PF-013B

アフターサービスについて

● 保証書について

保証書は販売店からお渡しします。必ず「販売店・購入日」など記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

無償修理の保証期間は、お求めの日から 1 年間です。（一部消耗品を除く）

● 修理を依頼されるとき

取扱説明書をお読みになって、ご不明な点やご不審な点があれば、お求めの販売店にご連絡ください。

※ 保証期間中の修理は保証書の規定に従って、お求めの販売店で無償にて修理をお受けいたします。

ご連絡していただきたいことは、お客様のご住所・お名前・電話番号、製品名・品番・購入日、故障または異常の状況（症状）

※ 保証期間が過ぎている場合は、お求めの販売店にご相談ください。ご希望により有料で修理します。アフターサービスなどについて、おわかりにならないときは、お求めの販売店にお問い合わせください。

商品に関するお問い合わせ

お客様相談センター
受付 9:00～17:00
（土日、祝日除く）

固定電話 **0120-108-117**
携　帯 **0570-064-475**（有料）
F A X **0570-017-108**（有料）
IP電話はご利用いただけません。

個人情報の取扱方針は、弊社ホームページをご覧ください。（https://www.toa.co.jp/privacy.htm）

価格・在庫・修理・カタログに関するお問い合わせ

取扱店または営業所へご連絡ください。
最寄り営業所は TOA ホームページでご確認ください。
（https://www.toa.co.jp/）

TOA株式会社

133-02-00573-09